三原日和

2018
10月号
vol.80
TAKE FREE

発行所　有限会社note
〒723-0051
広島県三原市宮浦6-30-1
phone 0848-62-6677
fax　0848-64-3233

発行人　noteinc
編集人　noteinc

協力　三原を愛する主婦の方々
ミカタワークス
はるのとおる

「私のオギロパン」

ペンネーム
久井町　西畑　恵子さん

ギフト券進呈

「オギロパン」と聞いて思い出すのは、私が保育所の頃、病気と言ってもたいしたことではなく風邪だったと思うのですが・・・

母が三原の病院へバスで行くと必ず「オギロパンのねじりパン」をお土産に買って来てくれるのです。それが、待ち遠しくて三原から帰るバスの音がすると、母の「ただいま」の声が聞こえるのを今か今かと布団の中で待っていました。

あの当時は、ねじりパンが1番大好きで、あの柔らかい、噛むと油と甘みのする。何とも言えない幸せのパンが私にとっては宝物でした。病気になると買ってもらえると、病気になるのも楽しみの一つでした。

メロンパンもコッペパンもあったような気がします。今でも耳を澄ますと鮮やかに蘇ります。

「ただいま」

「オギロパンは？」

ねじりパンの「におい」と「おいしさ」が母の思い出とともに蘇りました。

「オギロパン」のねじりパン　ありがとう！

「オギロパンにまつわる想い出」

ペンネーム
うるさん

ギフト券進呈

幼い頃、休日になると父は、私と三つ下の妹を自転車に乗せ、三原小学校へ連れて行ってくれました。

私たちは広いグランドを走りまわり、鉄棒にぶらさがり、アンコをこぎ・・・父はグランドの石段に寝そべり、新聞を読んだり、ウトウトしたり・私たちのことは放し飼い状態。昼近くになると父は「オギロパン」に行き、端をくるくるねじった紙袋からコッペパンとねじりパンを「ほら一食べっこ」と渡してくれるのです。口も手もべとべとにして青空の下でほおばるパンは最高のごちそうでした。

口数少ない父が買ってくれるのはいつもコッペパンとねじりパンだけだったけど、ささやかで倖せなランチタイムだったとなつかしく思い出すのです。

「オギロパンの思い出」

ペンネーム
ひつじさん

三原で育ったので、オギロパンは幼い頃から当たり前に身近にあるものでした。

短大に進学し、大阪に引っ越してから「あれ？なんでどこに行ってもオギロパンが無いんじゃろうか？」とスーパーを回りました。まさか三原オリジナルだったとは！初めて知りました。でも、むしろ全国区じゃなくてよかったのかも。三原ならではの味。こういうのっていいですね。

今は小麦粉アレルギーになってしまい食べられなくなりましたが、それでも「オギロパン」は思い出深いので大切です。

「みはらの一〇〇年パン屋さんと私」

ペンネーム
ゆきちゃんさん

昭和四〇年頃、小学生だった私は祖母に連れられ、西宮の小浦住宅から東町の三菱住宅に住むおばのところへ遊びに行っていました。その途中での出来事です。

当時は、駅前から帝人通りまでいろいろなお店が連なり、道行く人もたくさんいました。あまり無駄遣いしない祖母でしたが、叔母の家に行くときには、いつも駅前の「オギロパン」に寄り、コッペパンを一〇個くらい買っていました。小さかった私は、祖母の気前の良さにいつも「そんなに買うの？」と目を丸く目するほどでした。

陳列ケースの中には「味付けパン・クリームパン・あんパン・バターパン・コッペパン・・・」いつもあふれんばかりに並べてあったことをよく覚えています。

今思うと、嫁いだ娘のところへ行く祖母の心づかい、精一杯の贅沢だったと思います。私にとっても、いつもは食べることのできない、叔母の家で従姉と一緒に食べるコッペパンは最高のものでした。そのコッペパンは五〇年以上たった今でも、あの時の味のまま現在も「オギロパン」で味わうことが出来ます。

子どもの頃の思い出とともに、これからも「三原の味」として、永遠に受け継がれていくことを願っています。

写真提供していただけた投稿もありました

三原日和企画『オギロパン創業 100 周年記念』

「みはらの 100 年パン屋さんと私」多くの投稿ありがとうございました

「みはらの百年パン屋さんと私」

ケーキ屋さんみたいだった。

買いたいパンをトレイに取ってレジへ行く方法が普及していなかった頃、パンは店頭で、名前を言って買った。

ガラスの外から指差しながらパンの名前を言う私にあわせて、店員さんは袋に丁寧にパンを入れていった。その手さばきは子ども心にも楽しそうに見えて、私はパン屋さん（の販売員）になりたいとまじめに思った。一つの袋に複数のパンを入れた後、上部左右の端を持ってぐるんぐるんと回す。セロハンテープもホチキスも使わない、安全な封のしかただった。

駅に向う商店街の一角。前にならえしたかのように並べられたパンは、良い材料で正直に作られた証のようだった。それゆえ飽きない味で、子どもの私はいつも同じパンを頼んだ。

名前も好きだった。カリント・ビーナツ。それらはパンというよりはお菓子のようで、作り手のパンに対する愛情を垣間見るようだった。今にして思えば、何個のパンを買うかわからない私にサイズのあった袋を事前に用意するのは、販売員の経験のなせる技だったのではなかろうか。

この風景を思い出す時、私は小さな子どもで、親に手を引かれている。2人とも笑顔だ。

そのお店が今も健在である。先日の災害時には市民の為にたくさんのパンを焼いてくれたという。

一〇〇年、それはお店の歴史であると同時に、作る人が買う人のことをひたすら思い続けてくれた歴史ではなかろうか。そんなお店が三原にあることを私は誇りに思っている。

ありがとうございました

「オギロパンさんが創業100年を迎えています。三原日和らしく取り上げましょう」数ヵ月前、日和スタッフから声があがり、「らしさ」を求め、オギロパンさんに企画の趣旨を述べ、今回迄の運びとなりました。

予想を大きく上回る投稿数に驚き、スタッフ一同しっかり読ませていただき、本心は全ての投稿を紹介させてもらいたい気持ちになりました。年配スタッフは読みながらウルウルと目頭が・・・世代を越えてたくさんの人達の思い出に登場しながら、今も愛されているって素敵です。オギロパンさん、これからも美味しい三原をつくってください。

三原日和はこれからも頑張るみなさんを紹介します。※投稿文は限りなく原文のままで掲載しています

F様邸

タカシン・ホームのお客様インタビュー！
希望をちゃんと聞いてもらえる会社。防音室もすごく気に入っています！

タカシンには、楽器の演奏や音楽、映画が大好きなスタッフがたくさんいます！木造でも高性能な防音室やシアタールームが可能です。ぜひご相談ください。

担当　松江

いろいろな会社に行きましたが、なかなか希望に沿った提案が頂けず、そんな中、タカシンさんだけが、しっかり希望を聞いてくれて。「やっと話が通じた！」という思いでした。仕事上必要な防音室は、部屋の中に設置する小さな防音室ではなく、部屋全体が防音仕様のものを提案して頂き、とても広々。生徒さんには、「本当にここで吹いていいんですか？」と驚かれます。

お願いした期限が近く苦労されたと思いますが、希望通り対応して頂き、本当に感謝しかないです！ありがとうございました。

タカシンホーム　検索

株式会社　嵩心
タカシン・ホーム
三原本社
三原市和田 3-3-1
0848-61-1020

事業所展開
■ 新倉オフィス
■ 福山営業所
■ 東広島営業所

建設業の許可　広島県知事許可(特-26) 第35519号

サックス教室 生徒さん募集中

プロのサックスプレーヤーからサックスを習いませんか？
ただいま生徒さん募集中です！
アンサンブルグループ指導もOK！
尾道市美ノ郷町三成 2533-10
お問い合わせは　福本まで
fukumotoweb@gmail.com

楽しく学んでかっこよく吹きましょう！

第9回
浮城・歩ラリ～ はしご酒

2人もしくは4人でご参加ください

日　時　10月25日（木）
スタート　ゴール
19:00～20:30

集合場所　三原駅前市民広場

チケットの購入は…　9/25（火）よりチケット販売予定　**3,000円**

前売りチケット販売場所
うきしろロビー（三原駅構内）・三原国際ホテル・
飲食組合三原支部・三原商工会議所・一部はしご酒参

主催者
浮城・歩ラリ～実行委員会

後　援
三原市、三原商工会議所、（一社）三原観光協会、
三原食品衛生協会、三原テレビ放送㈱、広島県飲食業生活衛生同業組合三原支部、
日本バーテンダー協会備後支部

お問合せ先
☎0848-63-3678
飲食組合三原支部（営業時間：月・水・金曜日 12:00～16:00）

10月

はるのん cafe ライブびより

ライブを体験してみませんか？！　お昼間のライブにご招待します！

1組2名様プレゼント
7日㊐ 14:30～16:00 **ろっしい Tea Time Live**
はるのんcafeのマスターのアコースティックライブ　1200円（1ｄ＋おやつ付）
1組2名様（喫煙可能な会場なのでご了承いただける方）
応募方法：三原日和までメール又はハガキで

10月　今月はゆかいなジャンルのライブがいっぱい

1日	月	19:30～	¥2,000	**ヤマザキヤマト** 民族打楽器を駆使し躍動と癒しの音色を奏で歌う
5日	金	19:30～	¥2,500	**内田里美ライブVol.2** 出演：内田里美・坂元昭二・南風ドリア 三原東高校演劇部出身、里帰りライブ
6日	土	19:00～	¥1,000	**アコ天**
8日	月	14:30～	¥1,000	**お昼間アコ天**
17日	水	19:00～	¥1,000	**アコ天**
21日	日	14:00～	¥1,000	**YAMOME LIVE** ためきプレゼンツおもろい人集合
21日	日	19:00～	¥1,000	**アコ天「昭和のGSを歌おう」**
22日	月	19:00～	¥2,500	**French Jazz Live** 出演：James.K・六反俊典・実歳陽子
27日	土	15:30～	¥2,000	**たぬきの黒白歌合戦**
28日	日	14:30～	¥1,000	**ゴスペル＆ウクレレ合同発表会** 大阪のゴスペル部と三原のレレ部が練習の成果を披露します

アコ天（飛び入りライブ）はエントリーも予約もしなくてOK！その日に来て歌えます

1組3曲もしくは15分まで
参加費1,000円（1d付）
初心者大歓迎！

はるのんのマスター ROSSI が初のアルバムを制作しました。
絶賛！発売中です！
ROSSI
「DAY DREAM」
¥1200

coffee & Live & Paradise **はるのんcafe**
三原市城町2-2-4　0848-38-7227
12:00～21:00（ライブの時は変更あり）　水・木 休業日
http://www.harunon.com/　cafe@harunon.com

10月 日和カレンダー

□ 三原市芸術文化センターポポロ
□ リージョンプラザ

1
2
3
4
5
6

Marimba Piano Percussion
石原有希子マリンバコンサート
～華麗なるマリンバの響き～

10月6日(土)
開演 14:00　開場 13:30
三原市芸術文化センター ポポロ ホワイエ
三原市芸術文化センターポポロ
0848-81-0886
【入場料】全席自由 120 席限定
料金 1,000 円（会員 800 円）
チケット代金の半額を西日本豪雨災害の義援金とさせて頂きます。

7
8

ベートーヴェンヴァイオリン・ソナタ演奏会
二人の名演奏家と古の楽器で紡ぐ不滅の名作　第２回目（三原公演）

10月8日(月・祝)
開演 16:00　開場 15:30
三原市芸術文化センター ポポロ ホール
ピサンゼ セッション 0848-37-5317
三原市芸術文化センターポポロ 0848-81-0886
【入場料】全席指定　税込み
料金 3,500 円（ポポロクラブ会員 3,300 円）
【取り扱い】
ポポロ、ポポロオンライン、啓文社新浜店

9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

映画『コードブルー　ドクターヘリ緊急救命』

10月31日（水）①10:30～②13:30～③18:30～
三原リージョンプラザ 文化ホール
084-923-6800（福山シネマモード）
3名様プレゼント
【料金】一般：¥1,800　大学生・専門学生：¥1,500
3才～高校生：¥1,000　シニア（60歳以上）：¥1,100
【三原日和読者様割引】
一般：¥1,800→¥1,500　大学生・専門学生：¥1,500→¥1,300
3才～高校生¥1,000→¥800※シニアは割引なし
割引条件：三原日和紙面を持参頂くか、「三原日和見たよ！」とチケット売場で申告して頂くと適応させて頂きます。

◀『三原日和11月号』発行日

1行広告募集 !!「三原のみんなにんなイベントがあるよ。」という方に、ぜひ使っていただきたいびよりカレンダー。内容・費用は、広告文 40 字程度と日時・場所・連絡先を掲載して 5,000 円（税別）です。0848-62-6677 までご連絡下さい。HP からもお申込できます。

読者プレゼント
Ⓐ ザ・グレン・ミラーオーケストラ
Ⓑ 映画『コードブルー　ドクターヘリ緊急救命』
Ⓒ ろっしい Tea Time Live

応募方法：Eメール、ハガキ、封書にて　締切：2018年10月10日（水）必着
「①希望プレゼント名②住所③氏名④年齢⑤電話番号⑥今月の三原日和のご意見・ご感想」を記入のうえ、下記メールアドレス及び住所にお送り下さい。件名に「読者プレゼント」と入力してください。
Eメールアドレス：biyori@miharabiyori.net　住所：723-0051 三原市宮浦6-30-1 三原日和 宛
※住所等の個人情報は、プレゼントを発送する目的に限り利用します。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

なんしょ～るん？ その2　さんぽコラム

しあわせのだんご

さて東京は巣鴨へ行ってきました。とげぬき地蔵さん。知ってます？病気平癒のご利益があるという地蔵菩薩さまがご本尊だとか。まずは門前町である商店街をのーんびり歩きました。キョロキョロしながら。赤いパンツを売る洋品店。金物屋さんやお煎餅屋さん。地下にある喫茶店ではプレスリーがエンドレス。まあっ、レトロっ。

お参りをすませ、本堂を出たところに小さな出店。「幸福（しあわせ）だんご」一本百円」品のいいおばあさん。この光景にココロ奪われました。おおっ。なんてすてき。

「おだんごください」「お醤油は濃い方がいいかしらね」

たれをつけ炭火にあぶります。その間に白いお団子を次々に焼いていきます。あーきっと今朝も早くからお団子丸めたんやろなぁ。おばあさんの1日を想像しました。

1本百円のお団子を毎日売る暮らしはどんなに穏やかなんだろうか。

「幸福だんご」の文字に、この非日常に立つ自分の全てが救われた気がして。いやー最高です！びばー！あわせ！

わたしは甘いものが苦手なんですが、串にささった3つのお団子を食べました。醤油のしょっぱさがしみた、雨の東京でした。

はるのとおる　大阪生まれ。三原市糸崎在住。ライブカフェ店主。詩人。0型。いて座。酒のつまみが好き。